

校内研修計画

甲州市立松里小学校

1 学校課題

松里小学校は、甲州市の北西部に位置し、自然にも恵まれ多くの文化財や伝統行事が残る地域にある。児童数は129人（平成26年4月現在）で、学級数は今年度から特別支援学級が1学級増えて8学級になった。児童は学年の枠を超えて仲がよい。優しく素直で、えられた課題や学習に一生懸命取り組むことができる児童が多く、集団の中で個々が生きられ認めあえる機会も多い。

本校では、自分で課題を見付け自分の力で解決していくことに焦点を当て、主体的な学力を育てる指導・評価の研究を深めてきた。その結果、自ら課題を見つけ、友だちの考え方を取り入れながらいろいろな考え方で課題を解決しようとする姿や楽しみながら考え工夫して活動に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、自分の考えを主張する力、新しいことに挑戦しようとする意欲、自分の考えを他に伝えたり形にしたりする表現力、学習したことを応用する力などに課題が見られた。

一昨年度から、「話すこと・聞くこと」を中心に研究・実践を進めてきた。学校生活を通して意図的に伝えあう力を伸ばす取り組みを進め、子ども達の中に変化や進歩を感じることも多くなってきた。伝え合う力にはまだ個人差があるので今年度も引き続きこの主題に取り組みたい。また、今年度は、それを各教科の中にも取り入れていきたいと思っている。

2 研究主題

「子どもたち一人一人の伝え合う力を高める研究」
～「話すこと・聞くこと」の活動を通して～

3 主題設定の理由

本校では、平成17年度から3年間にわたり、算数や図画工作科を中心に主体的な学びを育てる学習過程の研究を進めてきた。また、平成20年度からは、教科を図画工作科に絞って、育てたい資質や能力を意識した指導と評価を柱に研究を深めてきた。本校の児童は、これまでの図画工作科における“ピピッとタイム”や“ピピッとカード”の取り組みから、図画工作科において自分の思いを膨らませたり、互いに感じたことを伝え合ったりする力が伸びてきたと感じている。しかし、他の教科や学校生活全体では、伝え合う力が未熟な部分を感じられた。そこで、一昨年度は図画工作科で培ってきた力を他教科にも広げ、伝え合う力の向上を実現していきたいと考え、国語科の「話すこと・聞くこと」を中心に研究・実践を進めてきた。いくつかの言語環境を整える取り組みにより、子どもたちの意識も変化しつつあり、「話すこと・聞くこと」の進歩を感じる場面も増えた。しかし、意識調査などの結果や実際の「話すこと・聞くこと」の活動の様子をみると、個人差が大きいことが伺えた。そこで、昨年度は国語科の「話すこと・聞くこと」に限らず、本校児童がいろいろな「話すこと・聞くこと」の場面で進んで活動ができるような、また、「話すこと・聞くこと」が好きになるような取り組みを模索し、子どもたち一人一人の伝え合う力の向上を目指していきたいと考えた。あいさつや学習規律の定着は、伝え合う力の根本を担う物であり、授業や様々な学校生活での活動の中に「話すこと・聞くこと」を効果的に位置づけ、積極的に取り組むことは、学力を育成していくための授業作りに欠かせないと思われ、数々の取り組みをしてさらに言語環境を整えた。

今年度は、甲州市の「確かな学力プロジェクト」ともリンクさせ、昨年度研究した「伝え合う力」を教科や教育課程全体で伸ばし、教師の授業力改善に生かすことと、Q-Uテストの分析をふまえてクラス全体や児童に表現の機会を意図的に設けることにより、子どもたちの伝え合う力を高めたい。また、これらの研究、取り組みを進めることで、子どもたち一人一人の伝えあう力を高めることにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 内容

- 「話すこと・聞くこと」を中心とした意欲を高める場の工夫
- 重点とする教科における「話すこと・聞くこと」についての理論研究と実践
- 「話すこと・聞くこと」について、児童の意識調査の実施と分析
- Q-Uテストの分析もふまえて児童の実態把握

(2) 方法

- 「話すこと・聞くこと」の基礎、「豊かな表現力（話すこと）」についての学習会を行い、共通理解を図る。
- 児童の意識調査や教師の見取りなどから課題を明らかにすると共に、子どもの変容をとらえて、次につなげていく。
- 教師が力量を高めるための具体的な取り組みを志向し、授業や活動実践を通して指導力を高めていく。
- 学校生活のあらゆる場面を通して「話すこと・聞くこと」の向上を支えていけるような環境作りに取り組んでいく。

環境の整備

- ◇「Q-Uテスト」の分析を通して児童の実態を把握する。
- 集会などでの発表を続ける。
- 声の物差し等の活用を行う。
- ◇意欲づけの機会を設ける。

◇いろいろなコーナーを設け、さらなる環境整備に努める。

各教科などへ広げる取り組み

- ◇選んだ教科や活動での「伝える力」の理論研究と明確化を図る。
- ◇授業中の教員による観察だけでなく、いくつかの方法を駆使して多面的に評価する。
- ◇「伝える力」を明確にするために講師や指導主事を招聘して学習会を開く。
- ◇「伝える力」に視点をあてた授業実践を行い、互いに学びあう場を設ける。
- ◇「伝える力」を育てる授業改善やディベートの導入など場の工夫を考える。

評価資料

- ◇Q-Uテストの分析と二回目の変容を見る。
 - ・K13法を利用した分析
- アンケートの様子
 - ・昨年度に引き続きアンケートを行い変容を見る。
- 授業観察や行事等での発表の様子
 - ・授業の様子や児童の行事等での発表の様子から変容を見る。

5 研修計画

☆講師・指導主事招請

月	日	内 容	提 案	備 考
4	1	(推進委員会) 今年度の研究の方向について		
	9	(全体1) 研究の方向性・研究内容と方法・研究体制	主任	
	23	(全体2) 研究内容と方法・研究体制の再確認	主任	
5	30	(全体3) Q-Uテストの分析と教科の決定	主任	教協総会 5/7
	28	(全体4) 学習会 (ブロック1) ブロック研究の方向について	主任 ブロック	教協研究日5/2 ☆指導主事招請
6	11	修学旅行のためなし		教協研究日6/4
	25	(全体会5とブロック2) 具体策の検討とK13法の実施 (早める可能性あり)	ブロック	
7	16	(全体6) 意識調査の実施と各ブロックとの情報交換	ブロック 長	確かな学力講演会 7/2
	中	(全体7) 意識調査の考察	全員	確かな学力講演会 7/9
8	20	(全体8) 教育課程環流報告会 これまでの成果と課題と修正点の洗い出し	全員 主任	教育講演会・ブロッ ク交流研究会 7/30 教協研究日8/4 統一授業研 8/29
9	3	(ブロック3) 授業案づくり	ブロック	
	10	(全体9) 授業案検討	授業者	
10	8	(全体10) 授業研準備		教協研究日 10/1
	15	(全体11) 授業研究会	授業者	☆指導主事招請
	29	(全体12) 授業案検討	授業者	確かな学力講演会 10/22 確かな学力講演会 10/28
11	5	(全体13) 授業研究会	授業者	☆指導主事招請 ブロック交流研究 会 11/12 教協研究日 11/26 確かな学力講演会 11/27
12	25	(全体14) 研究紀要の内容と分担について	主任	
	9	(ブロック2) ブロックのまとめ	ブロック 長	教協研究日 1/14
1	28	(全体15) 2回目の意識調査の考察 今年度の成果と課題と紀要について	全員 主任	ブロック交流研究 会 1/21
	25	(個人) 研究紀要作成	全員	統一授業研2/4
2	28	(全体16) 研究紀要作成	全員	教協研究日 2/18
	3	4	(全体17) まとめ	全員

研究主任 川野 和昭